

こどもの病気対策法⑪⑫

―夜間のこどものじんましん―

大分大学客員教授 是 松 聖 悟

今年度、子どものいるご家庭に配布してきた、夜間のこどもの病気対策フローチャートの改訂をしています。今回は「夜間のこどものじんましん」です。

急にじんましんがでてきたら、まず危険な状態でないかを判断してください。皮膚のかゆみだけなら急ぐ必要はありませんが、フローチャートに従って、次の症状のいずれかがないか確認してください。①息苦しそう②ぐったり③顔が腫れる④顔色が悪い⑤吐く⑥我慢できないお腹の痛み。これらが1つでもあれば、アナフィラキシーという危険な兆候の始まりかもしれません。アナフィラキシーは数分単位で悪化し、命にかかわることもありますので、その兆候があれば、救急車を要請していただきたいと思います。

それらの症状がなく、かゆみだけであれば、本人用の鼻水止めやアレルギーの薬を飲み、もしくは自宅にある軟膏（ステロイドやかゆみ止めが

望ましい）を塗り、30分観察してください。鼻水止めのお薬はかゆみ止めにもなりますので、医療機関から処方されたものがあれば、飲みきる前に1回分取り置きしておくことも一つの方法とされます。

それで眠れるようになれば朝、医療機関を受診すればよいでしょう。一度、じんましんができれば、その原因となったものが取り除かれても、1週間程度はでたりひいたりを繰り返すことは珍しくありません。

じんましんの原因は、乳幼児であれば食物アレルギーのことがありますが、それ以降であれば、食べ物だけではありません。体調や気温など複合因子で生じることも多いので、医療機関に相談されるとよいかと思っています。

ただし、このフローチャートはあくまで目安です。心配事があれば、こども電話相談#8000に問い合わせてください。

夜間のこどものじんましん フローチャート

